02 アーティスト・イン・スクール
Artist in School

札幌市立もみじの森小学校 × 小川智彦 2013年

内容・特徴：

「転校生はアーティスト」と銘打ち、アーティストが一定期間（数週間から数ヶ月）小学校に通って、空き教室などの学校の余剰空間をアトリエとして活用しながら創作活動を行い、子どもたちや地域と交流するプロジェクト。さまざまなアーティストの表現や価値観、生き方に触れることが、学校や地域の日常に普段とは異なる視点をもたらし、いままでにない他者との関わりを育むことを通じて学校そのものの場の可能性を考えるきっかけとなることを目指している。

2004年に「十勝アーテイスト・イン・レジデンス事業」（～2010年）としてスタートし、札幌では「トヨタ・子どもとアーティストの出会い事業」（2006～2007年）を経て、2008年から「おとどけアート」が「札幌新まちづくり計画」の一環として行われている。さまざまな季節に行われているが、毎年のように冬季にも実施。そこには、長い間、雪とともに過ごすなかで活動が鈍くなりがちな時期だからこそ、他の地域からやってくるアーティストといっしょに冬の新鮮さ、美しさを共有することができるこの季節が、しっかり感じたり考えたりという感性と思考のトレーニングには最適だという考えがある。

帯広市立大正小学校×KUSUGE-16（美術家）
2005年1月24日～2月4日
十勝アーティスト・イン・スクール事業

アーティストユニットのKUSUGE1-16が、アイススケートを通じて子どもたちや先生と交流。「小笹スケートスクール」と題されたこの活動において、子どもたちのなかからアーティストにスケートを教える講師を募り、澤在精関中毎日グラウンドに作られたスケートリンクや教室で指導を受け、学校行事のスケート記録会にも参加した。期間中、保護者と一緒にスケートリンクを滑れたり、ホームスティをしたりするなど地域の方々との積極的な交流を図った。最終的には、活動の記録を一枚の絵画にして学校に寄贈。

主催：アーティスト・イン・スクール実行委員会
共催：十勝毎日新聞社、帯広市教育委員会
協賛：財団法人アサヒビール芳醇文化財団
協力：クンペイ家行部隊
企画：NPO法人S-AIR（担当：小田井真美）
コーディネート：NPO法人S-AIR（担当：小田井真美、須田博）

ニセコ町立ニセコ小学校×磯崎遥佳（彫刻家）
2005年11月7日～11月18日，24日，27日
（財）北海道文化財団"文化の宅配便"事業

アーティストが2週間にわたり小学校に滞在し、子どもたちと一緒に開校100周年を迎えるニセコ小学校の学芸会に向けて、「ドーム／ DOME -みんなでドーム」と題した作品を制作。子どもたちのシルエットをかたどって「分身」を作り、透明なビニールドームに貼り付けて飾らます。子どもたちや地域の人達が中に入って遊戯した。

主催：財団法人北海道文化財団
企画：ニセコ町、ニセコ町教育委員会
制作：北海道、北海道教育委員会
プログラム・ディレクター：須田博（NPO法人S-AIR）
プログラム・アシスタント：岡田緑子
企画・記録映像編集：小田井真美（NPO法人S-AIR）

札幌市立山の手南小学校×野上裕之（彫刻家）
2007年1月22日～2月2日
トヨタ・子どもとアーティストの出会い事業

学校の南西に隣接する「山の手白銀公園」のなかに、雪の中での生活を体験できる場所として「雪のいえ＜しろがね城＞を制作。周辺の家の「雪かき」と連携することで、地域の「除雪」へのひとつの提案かつ実践にし、取り組む公園全体を、家であり、公園であり、一種の造型物になるように想定した。学校の空き教室を制作を行う「基地」として、模型の制作展示や、雪で遊ぶ子どもたちの道具の保管場所、休憩所と位置づけ利用した。そのなかで、実験的なことを考えたり、子どもからでたアイデアを記録。また、2学年と3学年とは、授業との連携を図り、より主体的に活動への参加を促した。活動の終盤には、アーティストの雪洞により様上げ式（完成披露パーティー）、ナイトキャンドル等のイベントを行い、保護者や地域の方々も多数参加した。

主催：トヨタ・子どもとアーティストの出会いin札幌実行委員会、トヨタ自動車株式会社
企画：特定非営利活動法人S-AIR（小田井真美、須田博）
協賛協力：特定非営利活動法人 芸術家と子どもたち
制作協力：子どもとアーティストの出会い
協力：札幌市立山の手南小学校、札幌地区トヨタ販売会社グループ
制作アシスタント：佐々木美江

札幌市立新光小学校×河田雅文（美術家）
2008年2月4日～2月15日
トヨタ・子どもとアーティストの出会い事業

完璧とともに、雪を素材とした架空なる山「FUJISAN(富士山)」を制作。校庭に富士の9合目以上の光景をつくり、火口周辺を一周探索するお詠即りができるような巨大な雪のオブジェとした。参加者のまな活動は、富士山を彩る灯籠と城野に広がる雪の村作りであり、最終日にはお披露目のセレモニー（山開き）を行った。完成した「FUJISAN」は、すり鉢状の火口に下って行けるなどの興奮と、本物の富士山に登った様な疑似体験ができ、この活動を通じて、子どもたちが（季節）と精密的に触れ合う機会を創出し、各々が自分のに登り「理想郷的実験」を創造してくることを目指した。お披露目のセレモニー時に、山の噴火を模して火口から花火を打ち上げたが、その後、この小学校の恒例行事として毎年行われるようになっている。

主催：トヨタ・子どもとアーティストの出会いin札幌実行委員会、トヨタ自動車株式会社
企画：特定非営利活動法人S-AIR（小田井真美、須田博）
企画協力：特定非営利活動法人 芸術家と子どもたち
制作協力：子どもとアーティストの出会い
協力：札幌市立新光小学校、札幌地区トヨタ販売会社グループ

札幌市立琴似西小学校×ルカ ローマ（彫刻家）
2009年1月26日～2月6日
おとどけアート事業

アーティストが2週間、小学校を舞台として、子どもたちや先生、地域の方と協働で、グラウンドに降り積もった雪を活用して、巨大な雪のお城のような「迷路」を作成。さらに最終的に出来上がった迷路では、そこで遊ぶルールやコスチュームを考え、チーム対抗のレースやスノーバトル等を実施した。

この活動では、「雪と戯れることを通じて遊び、学ぶだけではなく、学校関係者や地域住民向とが積極的に交流する機会や、北海道の厳しい冬の楽しく豊かな過ごし方を参加者と考える機会の提供を目指した。

主催：おとどけアート実行委員会
共催：sapporo II project
助成：トヨタ自動車株式会社
後援：札幌市教育委員会、札幌市
協力：インタークロス・クリエイティブ・センター ICC
撮影：加藤 義（写真家）
協力：札幌市立琴似小学校
企画・コーディネート：AISプランニング（須田博、髙村なるえ）
支援：文化庁、札幌市

札幌市立北小学校×東方悠平（現代美術家）
2010年2月8日～2月24日
おとどけアート事業

約2週間、小学校に滞在し、子どもたちや先生と交流しながら、グラウンドや空き教室を更一色に大変身させた。グラウンドには、雪場のビーチを彷彿とさせるコットや海の家、スイカ畑なども、雪を素材として制作。また、アトリエとなる教室には、活動への参加者が、「夏」や「地球の反対側（南半球）」をイメージするための金属づくりを行い、休み時間や放課後に交流の風景として展開した。この不思議さや違和感に基づいたさまざまな企画を通して、子どもたちには普段あまり常識することのない、台分たちの住む「地球」という星とそこで暮らす地場を意識してもらうことを目指した。

主催：おとどけアート実行委員会／共催：sapporo II project／助成：伊藤報100年記念基金
後援：札幌市教育委員会、札幌市／協力：インタークロス・クリエイティブ・センター ICC
撮影：加藤 義（写真家）／協力：札幌市立北小学校
企画・コーディネート：AISプランニング（須田博、髙村なるえ）
支援：札幌市

札幌市立常盤小学校×富士翔太朗（画家）
2011年1月19日～2月4日
おとどけアート事業

小学校の子どもたちと協働でプラネタリウムを制作。そのプラネタリウムは、約90枚の窓枠で構成され、子どもたちがデザインした星が無数にちりばめられた巨大な投影装置となった。お披露目の3日間は、大勢の地域住民が訪れ、それぞれの星が輝く幻想な宇宙を体感した。この活動を通じて、子どもたち（未来人）のコミュニケーションのあり方や、「興味」や「好奇心」から小学校とのアナログな「繋がり」が大切なことのひとつであることを体感してもらう機会の提供を目指した。

主催：おとどけアート実行委員会／共催：sapporo II project
助成：財団法人文化・芸術による福武地域振興財団
後援：札幌市教育委員会、札幌市
協力：札幌市立常盤小学校
企画・コーディネート：AISプランニング（須田博、小林健次郎）
支援：札幌市

札幌市立旭小学校×片岡昭（映画監督）
2011年2月7日～2月19日
おとどけアート事業

小学校の子どもたちや先生と協働で、短編映画（ショートフィルム）を制作。「ゆきだるまとチョコレート」と題した今回の映画は、アーティスト自らが制作した物語をもとに、映画に出演する役者やスタッフ、そして子どもたちのなかから募集し、一緒に作品を作り上げた。撮影は、主に休み時間や休日を利用し、子どもたちはそれぞれの役割を担いながら、制作に参加した。最終日には、学校で行われる雪祭り（ふれあいスノーフェスティバル）とタイアップして、作品の上映会を行い、多くの児童、先生、地域の方々に作品をお披露目した。

主催：おとどけアート実行委員会／共催：sapporo II project
助成：財団法人文化・芸術による福武地域振興財団
後援：札幌市教育委員会、札幌市／協力：インタークロス・クリエイティブ・センター ICC
協力：札幌市立旭小学校
企画・コーディネート：AISプランニング（須田博、小林健次郎）
支援：札幌市

札幌市立みどり小学校×山本耕一郎（現代美術家）
2012年1月17日～2月3日
おとどけアート事業

アーティストが小学校に来るまでの約3ヶ月間、子どもたちと「冬にどんなことができるか？」というテーマで交流を行った。そのやりとりのなかでキーワードになった「雪だるま」から「まるたき酒（雪だるまのさかさ読み）」という温泉郷を作るアイデアが生まれ、グラウンドにある林の中にいろいろな温泉と、マルダ芸という装置を制作。まず発足したまるたき酒泉音協会に、子どもたちは広報部・編集部・企画部・制作部の一員として参加し、温泉のこのれん／づくりや新聞の発行など自発的に活動した。お披露目会である「まるたき酒・開店」には多くの人が参加し、一夜限りの温泉郷を楽んだ。活動終了後にはアーティストがこのれん／を再利用してエコバックを作り、関わってくれたすべての人たちにプレゼントした。

主催：おとどけアート実行委員会／共催：sapporo II project
助成：財団法人文化・芸術による福武地域振興財団
後援：札幌市教育委員会／協力：札幌市立みどり小学校
企画・コーディネート：AISプランニング（須田博、小林恭次郎）
支援：札幌市

札幌市立もみじの森小学校×小川智彦（ランドスケープアーティスト）
2013年2月1日～2月15日
おとどけアート事業

アーティストが、転校生として小学校に約3週間滞在し「スノーガーデニング」を実施。スノーガーデニングには、主にスノースタンプ（草や花、鳥の模様のスタンプ）や雪松模様作り、大きな雪部作りといった様類があり、活動のなかで子どもたちは、スノーガーデニング用具の開発や制作を行いながら、実際に雪遊びを体験した。また放課後、保護者を対象としたスノーガーデニング入門講座（有償）、地域に向けての活動普及を行い、活動最終週には、通学路や小学校の周辺地域にスノーガーデニングを作り出す「スノーガーデンショー」を開催した。この活動を通じて、スノーガーデニングが冬の雪を使った遊びのひとつとして定着していくことや、厳しい冬を楽しめるアイデアや知恵を考える機会を提供し、地域に新しい習慣を生み出そうという試みを行った。

主催：おとどけアート実行委員会／共催：sapporo II project
助成：財団法人文化・芸術による福武地域振興財団
後援：札幌市教育委員会／協力：札幌市立もみじの森小学校
企画・コーディネート：AISプランニング（須田博、小林恭次郎）
支援：札幌市

札幌市立山鼻小学校×持田敦子（芸術家）
2015年2月9日～2月20日
おとどけアート事業

小学校の向かいに位置する山鼻公園を舞台に雪の作品制作を行った。巨大な雪山に服え付けられた木製のドアから入ると狭く蛇行した通路が続いており、雪から顔り出された公園のベンチや、札幌新石の断片が点在するなかを観賞者が跨ぐ越えながら進んでいくことになる。後には石を把やすパフォーマンスを行った。公園内での恋山遊作や小学校内での健康財団などの活動には、児童だけでなく数職員や地域住民も参加し、最終日のお披露目会には多くの人が訪れた。

主催：おとどけアート実行委員会
共催：sapporo II project
助成：地域づくり総合交付金（北海道）、公益財団法人福武財団
後援：札幌市教育委員会
協力：札幌市立山鼻小学校
企画・コーディネート：AISプランニング（須田博、小林健次郎）
支援：札幌市

札幌市立平岸高台小学校×黒田大祐（美術家）
2016年1月19日～2月13日
おとどけアート事業

アーティストが、小学校の図工室をアトリエにつつの作品を制作。「ここは札幌ではない」以上、小学校にある謎の南国町の壁画に実家の札幌の風景を描き込んだ。湿度変化で現れたり消えたりするインクを用い、完成後には訪ねった人たちのサインと共に絵を消すが、いずれ小学校が何かの都合で跡背に生き込んだ時に再び表れる作品として展開した。「自の絵画」は、欧州ラスに専用の神々を表て折い、息を使い絵を描くというもので、札幌が原野だったころの風景を想像して、札幌に自生している植物を描き、風景画を作り出した。活動は主に中休み・昼休み・放課後に行い、給食時間にも交流を行った。また、最終日には児童・保護者対象の「息の絵画」のワークショップも行った。作品の一部は札幌市資料館にて展示された。

主催：おとどけアート実行委員会
共催：sapporo II project
助成：地域づくり総合交付金（北海道）、公益財団法人福武財団、さぽーとほっと基金
協賛：トヨタ自動車株式会社
後援：札幌市教育委員会
協力：札幌市立平岸高台小学校
企画・コーディネート：一般社団法人AISプランニング（須田博、小林恭次郎）
支援：札幌市

札幌市立澄川南小学校×ミッシェル・アンジェリカ・カピルド（アーティスト）
2018年1月22日，25日，2月1日～13日
おとどけアート事業／国際公募事業「s(k)now」の一環として実施

フィリピン出身のアーティストが、砂と氷をテーマにした創作活動を行った。活動は主に図工室で行い、彼女が事前に行った氷の結晶生成や凍りとめ材に関する調査をもとに考えたワークショップを実施した。子どもたちと模様的に交流を行い、小学校の中庭に「噴水」という名前の新しい庭を作り出した。また、小学校での活動終了後、さっぽろ天神山アートスタジオにて、活動の成果を発表した。

主催：札幌市市民文化局国際芸術祭推進部、さっぽろ天神山アートスタジオ
協力：札幌市立澄川南小学校
企画：小田井真美（さっぽろ天神山アートスタジオAIRディレクター）
コーディネート：一般社団法人AISプランニング（須田博、小林恭次郎）